

2018.12.18

片岡綾乃 パーカッション・リサイタル ConText—観・そして・感—vol.3 “Decade”

《開催概要》

世界のトップアーティストで構成される「Chamber Music Society of Lincoln Center(リンカーンセンター室内楽音楽協会)」にパーカッショニストとして初の所属アーティストとなった他、世界的チェリスト、ヨーヨー・マと共演、ジャンルを超えたプロジェクトやアーティストとのコラボレーションを多数行う等、アメリカを拠点に多彩に活動を行うパーカッショニスト、片岡綾乃が約 10 年ぶりのリサイタルを実施します。

東京都交響楽団のメンバー等実力派達と共に、彼女が得意とするシアター・ミュージックを始めとした現代音楽の世界をお届けします。片岡が奏でる「打楽器音楽の世界」をご堪能ください。

名 称	片岡綾乃 パーカッション・リサイタル ConText—観・そして・感—Vol.3 “Decade”
日 時	2019 年 5 月 23 日 (木) 19:00 開演 / 18:30 開場
会 場	東京オペラシティ リサイタルホール (東京都新宿区西新宿 3-20-2)
楽 器 協 力	パール楽器製造株式会社
制 作	株式会社 1002

本公演についてのお問合せ・取材等のお申込

〒102-0083

東京都千代田区麹町 1-3-7 日月館麹町ビル 3F

株式会社 1002

TEL 03-3264-0244 / FAX 03-3264-1788

公演担当= 佐々木麻衣[ササキ マイ] sasaki@1002.co.jp

井上詩織[イノウエ シオリ] inoue@1002.co.jp

《公演概要》

プログラム

マーク・アップルバウム／アフェイジア

Mark Applebaum/Aphasia vocalist or actor with tape (2010)

アレハンドロ・ヴィニャオ／wood wind & metal ～樹 風 メタル～ ※日本初演

Alejandro Viñao/ Madera Viento y Metal for marimba and electronics (2016) ※Japanese Premiere

マウリシオ・カーゲル／ノイズ・アート

Mauricio Kagel/ L'art Bruit Solo for Two (1994-95) [アシスタント: ジョシュア・ペリー]

スティーブ・マッキー／打楽器ソロと室内楽 5 重奏のための「マイクロ・コンチェルト」 ※日本初演

Steven Mackey/ Micro-Concerto for Solo Percussion, Flute, Clarinet, Violin, Cello, and Piano (1999)

※Japanese Premiere

[共演: 小池郁江(フルート)、勝山大輔(クラリネット)、渡邊ゆづき(ヴァイオリン)、古川展生(チェロ)、坂野伊都子(ピアノ)]

ヤニス・クセナキス／ルボン

Iannis Xenakis/ Rebonds for solo percussion (1987-89)

ConText—観・そして・感—vol.3 “Decade”

片岡綾乃

東京オペラシティ文化財団主催「B→C」に出演させていただいてから、2019年で10年になる。東京オペラシティ リサイタルホールは、初めてのソロリサイタルを開催した思い出深い場所でもある。そして、マサチューセッツ大学アマースト校音楽学部の打楽器講師に就任してからも10年が経った。この10年間は、演奏家としてだけでなく、メンターとしての責務が加わり、様々な状況に遭遇し時には難題にぶつかりながらも、アーティスト仲間、大学の同僚、そして生徒との信頼関係を築いていくという、より広範なチャレンジの機会を与えられ、本当に沢山のことを学んだ。

あれから10年。“Decade”の時を経て培ったもの、そして今後も探求していくもの。リサイタルを行うことで自分の原点を再確認し、自身への道しるべを模索したいと思った。

今回選んだレパートリーを総合的に見ると、パーカッションのコンサートというイメージからはかけ離れているかもしれない。“Aphasia” (失語症の意)はジェスチャーのみの作品、そして vol.2 のリサイタルでもテーマとして取り上げた「シアター・ミュージック」の象徴的作曲家とも言えるカーゲルの作品は、異文化に触れた際に生じる「ぎこちなさ」と「意外性」が、曖昧さを伴って独特の作風を生み出していると思う。マッキー作曲の「Micro-Concerto」は、近年ではもはや当たり前のように“打楽器”として使用されるグラスボトル、空き缶等のガラクタ類にはじまり、ホイッスル、ハーモニカ、そして犬のトレーニングに使うクリッカーまで、パーカッションニストというよりはむしろサウンドメーカーとして様々な音を繰り出し、アンサンブルによるポップなメロディーやリズムミッドな掛け合いと相まって、ウィットに富み、非常にカラフルでオリジナリティに溢れた作品である。クセナキスの「Rebonds」は、私がパーカッションニストとして何を体現したいのか、演奏する度に内面のプリミティヴな部分を呼び覚ましてくれる作品である。

目でかん(観)じて、心でかん(感)じてもらえたら、幸いである。

出演者

片岡綾乃 Ayano Kataoka (パーカッション)

千葉県出身。5歳よりマリンバ、15歳よりパーカッションを始める。東京藝術大学音楽学部卒業後に渡米し、ジョンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院にて修士課程、イェール大学音楽院にてアーティスト・ディプロマコースを修了。久保友子、藤城佳之、高橋美智子、有賀誠門、ロバート・ヴァン・サイスの各氏に師事。ニューヨークのリンカーンセンターを拠点とするリンカーンセンター室内楽音楽協会 (Chamber Music Society of Lincoln Center=CMS) の若手演奏家育成プログラム「The Bowers Program (CMS Two)」に、難関のオーディションを経てパーカッションニストとして初のアーティストとなる。2005年のCMSデビューコンサートで、エマニュエル・アックス／野崎洋子夫妻、ドン・リウツィ(フィラデルフィア管弦楽団首席ティンパニスト)とバルトーク

の「2 台ピアノと打楽器の為のソナタ」を演奏して以来、アメリカの室内楽シーンをリードする協会の主要メンバーのパーカッショニストとして、高度な演奏技術と芸術性、かつ柔軟なアンサンブルスキルを要する様々なレパートリーの演奏に携わり、あらゆる楽器のトップレベル奏者との共演を維持している。CMS でこれまでに共演したアーティストは、ドーン・アップショウ(ソプラノ)、トーマス・ハンプトン(バリトン)、ランドール・スカーラータ(バリトン)、ギルバート・カリッシュ(ピアノ)、アレッシオ・ボックス(ピアノ)、ランソム・ウィルソン(フルート)、デイヴィッド・シフリン(クラリネット)、ダニエル・ドラックマン(パーカッション)等。2017-18 年シーズン最後の CMS コンサートではコンチェルトソリストとして Steven Mackey 作曲の「Micro-Concerto」を演奏、プログラムとシーズンのトリを務めた。2009 年、世界的チェリストのヨーヨー・マと、ニューヨークのアメリカ自然史博物館にてチェロと 2 人のパーカッショニストの為の新曲「Self Comes to Mind」(Bruce Adolphe 作曲)を、脳神経科学者による脳のイメージ画像とのライブコラボレーションという形で世界初演。その他、ストラヴィンスキー作曲の「兵士の物語」を、アメリカの TV シリーズ「M*A*S*H」のホークアイ・ピアス役で有名な俳優のアラン・アルダ、同じく TV ドラマ「ER 緊急救命室」ジョン・カーター役で知られるノア・ワイリーらと共演する等、ジャンルを超えたプロジェクトやアーティストとのコラボレーションも多数行っている。日本では、2009 年に東京オペラシティ文化財団主催リサイタルシリーズ「B→C(ビートゥーシー)」出演、コンサートの模様は NHKBS の「クラシック倶楽部」にて放送された。現在アメリカに在住し、マサチューセッツ大学アマースト校(University of Massachusetts Amherst)音楽学部打楽器科准教授として、後進の指導にも当たっている。

《共演》

小池郁江 Ikue Koike (フルート)

東京藝術大学を首席で卒業、アカンサス音楽賞を受賞。同大学院を修了。アフィニス文化財団の海外研修員として、ミュンヘンに留学。日本フルートコンヴェンションコンクール第1位、日本管打楽器コンクール第1位および特別大賞受賞。神戸国際フルートコンクール第5位入賞。東京オペラシティ文化財団主催リサイタルシリーズ「B→C」に出演。宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭、サイトウ・キネン・オーケストラに出演。東京藝術大学、桐朋学園大学、各非常勤講師。東京都交響楽団フルート奏者。

勝山大輔 Daisuke Katsuyama (クラリネット)

世田谷学園高等学校を経て東京音楽大学卒業。第84回日本音楽コンクール第1位入賞。これまでにクラリネットを日向秀司、浜中浩一、亀井良信、加藤明久の各氏に師事。東京佼成ウインドオーケストラを経て、現在東京都交響楽団クラリネット奏者、紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。国立音楽大学、桐朋学園大学、各非常勤講師。

渡邊ゆづき Yuzuki Watanabe (ヴァイオリン)

桐朋女子高等学校音楽科、同ソリスト・ディプロマ・コース、パリ・エコール・ノルマル、パリ国立高等音楽院大学院を修了。久保田良作、久保良治、江藤俊哉、A.デュメイ、J.J.カントロフに師事。東京国際音楽コンクール室内楽部門齋藤秀雄賞受賞。日本音楽コンクール1位。レウカディア賞、黒柳賞、鷺見賞、海外派遣特別賞を受賞。ガエターノジネッティ国際室内楽コンクール2位。洗足学園音楽大学講師。東京都交響楽団副首席ヴァイオリン奏者。

古川展生 Nobuo Furukawa (チェロ)

桐朋学園大学卒業後、ハンガリーのリスト音楽院に留学。1995年第64回日本音楽コンクールチェロ部門第2位入賞。2003年第2回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。ソロ活動においては、

国内外のオーケストラ、著名指揮者との共演、全国各地でリサイタル、室内楽の活動を精力的に展開。他ジャンルのアーティストとのコラボレーションも積極的に行う等、クラシックにとどまらずポップス、ジャズ、タンゴと幅広いフィールドで目覚ましい活躍を続け、人気、実力ともに各方面から最も注目を集めているチェリストである。昭和音楽大学客員教授、桐朋学園大学非常勤講師。東京都交響楽団首席チェロ奏者。

坂野伊都子 Itsuko Sakano (ピアノ)

京都府出身。第 69 回日本音楽コンクール 2 位受賞を皮切りにソロ、室内楽において様々なアーティストと共演を重ね、国内外の音楽祭、録音等様々な室内楽プロジェクトに積極的に参加。第 6 回宮崎国際音楽祭にてピアノリトでアイザックスターン氏のレッスンを受講。第 7 回トリエステ国際室内楽コンクール(イタリア)最高位受賞等、数々の国内外のコンクールにて入賞。国立音楽大学ピアノ科を首席で卒業、武岡賞受賞。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コースにて研鑽を積む。精力的な演奏活動の傍ら母校の国立音楽大学附属高等学校にて後進の指導にもあたる。

《賛助出演》

ジョシュア・ペリー Joshua Perry (パーカッション)

ニューヨーク・タイムズ紙に「クリエイティブなパーカッショニスト」と評される。現代音楽作曲家とのコラボレーション、ソロ及び室内楽作品の委嘱初演は 100 曲以上を数え、マルチメディアの手法を取り入れた作品や、シアター・ミュージック等に意欲的に取り組んでいる。室内楽アンサンブル「Misc-en」、パーカッションアンサンブル「Iktus」、「Hotel Elephant」のメンバーとしても活躍中。これまでに「Bang on a Can」マラソンコンサート(ワールド・トレード・センター)、「New Voice-New Music」(カーネギーホール)、「バッファロー音楽祭」、「MATA フェスティバル」等に出演した他、ブラジル、韓国等でも演奏。現在、ニューヨーク州立ストーニーブルック大学の博士課程に在籍、E.レアンドロ氏のもとで、さらなる研鑽を積んでいる。

料 金

一般前売: ¥4,000 一般当日: ¥4,500 学生: ¥3,000 (全席自由・消費税込み)

前 売 開 始

2018 年 12 月 22 日(土)

プ レ イ ガ イ ド

東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999(10:00~18:00/月曜定休)
チケットぴあ 0570-02-9999 <http://pia.jp/t/> [Pコード:137-244]

お 問 い 合 せ

株式会社 1002[イチマルマルニ] 03-3264-0244 <https://www.1002.co.jp/>

※都合により、出演者・プログラムが変更になる場合がございます。

※未就学児のご入場はご遠慮ください。